

## 進捗状況の概要（1ページ以内）

ラーニングコモンズの利用促進、ルーブリックの試作、ステークホルダとの連携、AP 事業の周知普及、幹事校等採択校間の緊密な連携等に全学体制で取り組み、概ね計画通り推移している。

**■学内の実施体制：**学長の強いリーダーシップの下、教育推進センターが事業推進体制の中心を担い、全学体制で計画の遂行に取り組んでいる。主要事業は教育推進委員会（教育推進センター運営組織）の各委員による担当制となっており、取組状況は毎月の委員会で進捗報告されたのち、定例教授会で共有されている。また、事業関連の重要テーマ（質保証、学生支援等）を中心にFD(SD)での認識共有、能力開発に努めた。平成29年度のFDは、全15回のうち9回で重点テーマを題材として実施した。

**■中心となる取組：**ディプロマ・ポリシーの「4つの力」の獲得状況を客観的に評価するためのルーブリック開発を進めた。前年度の学生向け調査で明らかになった学生の考える「4つの力」の因子構造を基に、FD(6月21日開催)で「教員として獲得を求める力」について議論し、教育推進センターにて検討し「4つの力」それぞれに5つの評価の観点を設定した。これら20の観点について教育推進センターでルーブリックを試作し、29年度秋学期授業評価アンケートの項目に組み込み学生に自己評価させた。この結果と29年4月に実施したアセスメントテストの結果を比較したところ、評価値に差が出たため、ルーブリックの項目を調整し試案が完成した。平成30年3月9日に開催したルーブリック検討会では、完成した試案について産業界や卒業生から意見を聴取した。それぞれの尺度におけるパフォーマンスの表現方法や内容について意見をいただき、学生にとってよりわかりやすく、産業界への連続性を持つルーブリックの開発が進んだ。具体的な意見反映の一例としては、「会話力」と「セルフモチベーション」をそれぞれ「コミュニケーション力・発信力」「リーダーシップ」の評価の観点として追加した。30年度以降は学生による自己評価等に活用し、引き続きアセスメントテストの結果と比較して基準関連妥当性について検証していく予定である。

**■取組の成果：**(上述「中心となる取組」を除く)

1) 開設したラーニングコモンズは平日平均44名、試験期間中平均100人以上の学生が利用するなど、授業外学修を含む様々な学修活動の場の提供に寄与した。2) 演習系科目を中心とした授業でステークホルダの協力を得、共同で学生の教育を推進した。特に、プロジェクト型応用演習やインターンシップでは学外から提供された課題に取り組むことで能力の向上が図られた。酒田市からの寄附(60万円×5年間)を得たことで、メディア情報コースの新設につながった。3) パンフレットや年次報告書を作成してAP採択校はじめ関係機関に配付したほか、河北新報に広告記事を掲載し、本学の取組を含めたAP事業の内容について県内外に広く周知できた。4) FDを開催し学修成果の可視化の方法やラーニングコモンズ運用方法について学内の理解が深まった。5) 各種研究会等に参加して他大学の状況について理解を深めるとともに、本学の取組についても発表をすることで、情報共有を行った。

**■補助期間終了後の継続発展に向けた取組：**事業採択以前より学長のリーダーシップのもと全教職員で教育改革に臨んでおり、補助期間終了後も継続していく。外部評価委員会は事業終了後解散する計画だが、内部の点検評価委員会で適切に評価を続け、PDCAサイクルを機能させる。事業終了後の人件費やアンケート調査経費、アセスメントテスト実施費等は大学独自予算で計上予定である。

**■学内外への波及効果：**自作クラウドポートフォリオは経費を抑制できることから、仕組みを公開することで他大学の経費削減に貢献することも念頭に開発を進めている。事業採択後の成果は合同シンポジウム等への参加やテーマV地域別研究会での事例報告、年次報告書の発信、他大学からの視察受入等を通じて着実に情報発信されている。・文部科学省支援事業採択数ランキング (AERA ムック「大学ランキング2018」) において全国私立大学では第6位、東北・北海道私立大学第1位、・本当に強い大学総合ランキング“教育力”ランキング (週刊東洋経済「本当に強い大学2017」) において全国国公立第12位、私立文系大学で全国第1位となっていることからAP事業を中心とした教育改革が学外からの評価を得ているといえる。